

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～

(Ref No : 22-016)

1 ミクロネシア連邦 (FSM) は、8 月 1 日から国際往来を再開する。パニェロ大統領は、COVID-19 ワクチンはブースターまで接種していること、また、出発前 72 時間以内の PCR 検査が必要と述べた。

7 月 19 日に同国で初めての新型コロナ感染者が確認され、大統領は、市中感染が進んでおり既に数千人が感染していると述べた。

[原文](#)

(29th July 2022, Radio NZ)

2 トンガ政府は、8 月 1 日から国際往来を再開させることを発表した。フライト数は今後 2 か月で徐々に増加させる。大人は COVID-19 ワクチンの最低 2 回接種を証明する必要がある、全乗客は出発前に第三者による迅速抗原検査 (RAT) 陰性証明の取得が必要である。

[原文](#)

(23rd July 2022, Matangi Tonga)

※在トンガ日本国大使館 ([リンク](#) 参照)

【論説】

3 中国の太平洋進出は裏目に出ている。中国の王毅外相は 5 月、南太平洋を巡り、多国間の開発と安全保障についての協定である「China-Pacific Island Countries Common Development Vision」への同意は得られなかった一方で、地域の伝統的な強国である豪州、ニュージーランド (NZ)、米国を動揺させた。しかし、広い視点で見れば、中国が太平洋地域で、優位性はおろか、外交、経済、軍事の面でこれら強国と同等になるには、計り知れない困難が待ち受けている。

ソロモン諸島との協定は、その手法が中国のイメージを大きく損ねた。中国は秘密裏に二国間交渉を行うのではなく、透明性を確保して太平洋諸島フォーラム (PIF) の意見を取り入れるべきだった。太平洋地域では、特に地域全体に影響を及ぼす可能性のある問題については、コンセンサスに基づく意思決定が極めて重要である。また、PIF のうちマーシャル諸島、ナウル、パラオ、ツバルの 4 か国が台湾と外交関係があり、いずれも長年の協力関係から台湾と友好的である。もう一つの課題は、PIF が米中の大国間競争に巻き込まれてしまうようなことには関心がないことだ。しかし、この (※大国への) 嫌悪感は、中国のように米国を苦しめていない。ハリス米副大統領は 7 月の PIF 首脳会議でビデオ演説に招待されており、中国にとっての問題は、近隣の伝統的な友

好国である豪州と NZ と同様に、米国が依然として優勢であり、優先されやすいことである。

中国はまた、「一帯一路構想（BRI）」について受益国に持続不可能な債務をもたらしているという欧米の語り草と戦っている。中国が太平洋地域で今後成功を収めるためには、BRI がいかに安全で公正な選択肢であるかを示す必要がある。

中国には成功事例もあり、キリバスとソロモン諸島は 2019 年に台湾との外交関係を解消した。これは、これまで太平洋諸国にほとんど関心が無かった米国に警鐘を鳴らし、ハリス米副大統領は PIF での演説で、ソロモン諸島の米国大使館の再開に加え、キリバスとトンガへの在外公館の開設、初の PIF 特使の任命、太平洋地域への資金提供の 3 倍への引き上げ、平和部隊（Peace Corps.）の太平洋地域への復活、米国国際開発庁（USAID）によるフィジーでの活動再開と太平洋諸島戦略の立案を発表した。バイデン政権はまた、6 月に豪州、日本、NZ、英国が参加する「Partners in the Blue Pacific」を立ち上げた。豪州もまた、この地域における中国のプレゼンスの高まりを非常に深刻に受け止めている。NZ も最近まで中国と政治的・経済的関係を切り離す中道を歩んできたものの、懸念が大きくなっていることを認めている。アーダーン首相は後日、中国をなだめるためにこの発言を撤回したが、同首相と NZ 政府が中国の活動に不快感を抱いていることは明らかである。

つまり、中国はソロモン諸島とキリバスという例外を除いて、太平洋における影響力の拡大については、限られた成功しか収めていないということである。

[原文](#)

(26th July 2022, Foreign Policy)

4 Ocean Voyages Institute (OVI) は、世界最大級の海洋プラスチック密集地帯である Great Pacific Garbage Patch で 96 トンのプラスチック漁網、釣り糸、ブイ、ごみなどの廃棄物を回収した。OVI は 130 フィート（約 40m）の帆走貨物船 Kwai 号を使用して北太平洋での清掃活動を行っている。Kwai 号はマーシャル諸島政府（RMI）が所有し、船員は RMI、米国、キリバス、フィジー、カナダ、南アフリカ、英国、ドイツ出身者で構成され、ミッションはハワイ大学と共同で実施されている。OVI の最終目標は北太平洋における 100 万ポンド（約 454 トン）のごみの除去で、この長期ミッションのために更に 2 隻の専用帆船を設計しており、その建造資金調達を望んでいる。

[原文](#)

(26th July 2022, Maritime Executive)

5 環太平洋の 26 カ国と IMO を含む 9 つのオブザーバー機関で構成される Asia-Pacific Heads of Maritime Safety Agencies (APHoMSA) forum がクック諸島で開催される。APHoMSA は 1996 年から毎年開催され、地域協力の強化、海洋環境保護の調整、緊急対応、安全運航、船員の生活・労働条件の国際基準への適合など、地域の重要な海事問題について議論している。

[原文](#)

(26th July 2022, Marine Insight)

6 国営の中国中央テレビは、南シナ海で係争中のスプラトリー諸島にある中国の三大人工島である Fiery Cross、Subi 及び Mischief reefs に救難と海事管理 (Maritime Administrations) に関する常設組織を設置したと報じた。新しい飛行部隊と海難救助及び管理担当の職員が配置される予定。

[原文](#)

(23rd July 2022, South China Morning Post)